

●全国学力学習状況調査(小6)

課題の見られた問題の概要	結果
	—
	—
	—
	—

●児童・生徒の学力向上を図るための調査(小5)

課題の見られた問題の概要	結果
自分たちが通う小学校がある区市町村の位置の理解	25.8%
東京都の地形、特色ある地域、主な都市の理解	51.6%
道具のうつりかわりと、それに伴ったくらしの変化の様子の特色を捉える	20.4%
資料から取り出した情報を比較・関連付け、変化を読み取る	52.7%

●調査結果を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
昨年度、「伝統の保護から特色ある町作りを結論付ける」は25.6%であった。しかし、今年度は分析する時間を確保することで、73.1%と定着してきたことが分かる。	東京都の地図から西東京市の位置や都内の主要な場所を見つける問題は、昨年度から課題とされている。西東京市と都内の学習は、中学年の内容である。中学年のころから学習を通して地域に触れ合うことや地図を積極的に活用するなど、学習の工夫が必要である。

●調査結果を踏まえて学校全体で取り組む内容

- 児童にとって身近な題材を教材化するなど、引き続き意欲的に活動できる学習を計画していく。
- 具体的な活動が確実な理解に繋がるよう、板書や発問を工夫するとともに、地図や写真等の資料を大型テレビモニターで映して見せる等、ICTを活用させて授業の「見える化」を図る。
- 複数の資料を関連付けて考えられることを適宜表現する活動を取り入れ、解決する力や結論を導く力に繋げる。

●調査結果を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
3年生	自分たちが通う小学校がある区市町村の位置や市内の町の様子など、地図上での位置関係や地図からの情報を正確に読み取ることに課題をもつ児童が多い。	日ごろの学習から地図を使い、地図に慣れ親しむ必要がある。また、身近な地域を題材にした具体的な活動を通して、そこから分かったことや考えたことを表現しながら、地域の地理的環境や生活についての理解に繋がるよう関係付けを促す学習を実施する。
4年生	様々な資料から読み取りや発見ができる児童は多いが、その事実と関連させて理由を考えることが苦手である。	資料について、理由を考えさせる場面では、思考ツールを活用し、主体的に思考する活動を多くする。
5年生	関心・意欲は8～9割台と高い。都道府県の位置や名称の理解が不十分である。一つの事象に対して多面的なつながりがあることに気づくことが苦手である。	知識・理解の時間を十分に確保しつつ、資料を基に推論したり、結論を導き出したりする力を育てるために、思考ツールを用いて、資料を基に思考する場면을意識的に設定する。
6年生	歴史の学習について興味・関心の高い児童と低い児童に二極化している。また、知識量における差も大きい。	どの児童も興味関心をもてるように、学習する人物に関するエピソードを交えて紹介したり、映像資料を活用したりする。また、予想を立てるなど思考を促す場面も設定する。

●本校の実態を踏まえた学力等に関わる成果と課題

成果	課題
<p>社会科への興味・関心は高く、多くの児童が意欲をもって学習に取り組むことができる。 グラフや写真等、資料の一部を読み取る技能や単独の資料から読み取る力は概ね備わっている。</p>	<p>資料から分かることを選んだり、読み取った事実から自分の考えを導き出したりすることを苦手とする児童が多い。 また、複数の資料を組み合わせて読み取る力に課題がある。特に自分の生活に身近でない事象に対してその傾向が強い。</p>

●学校全体で取り組む内容

<p>○複数の資料を関連付けて考えられることを思考ツール等を活用して書き出したり話し合ったりする活動を適宜取り入れ、個々の読み取りをグループで話し合ったり、全体で共有したりすることで比較・分類の機会を多く設定する。 ○資料の中の数値の変化や他の資料との異同等に着目しながら読み取る方法が身に付くよう、適切な指示や発問、資料の提示を適宜行うようにする。</p>
--

●本校の実態を踏まえた学年ごとの課題及び改善策

学年	児童の実態及び指導上の課題	具体的な授業改善策
3年生	<p>身近な地域の建物や公共施設の位置関係を地図上で確認することを苦手とする児童が多い。学区内は理解しているが、学区外になると理解しにくい児童が多い。</p>	<p>児童の生活圏から離れると理解しにくいところがあるので、公共交通機関を目印として、理解できるように指導する。また、上空写真を使い、学区外も見て分かるようにする。 身近な場所の探検や地図作り、ガイドブック等の活動を取り入れることで適切に利用したりする。</p>
4年生	<p>様々な資料から読み取りや発見ができる児童は多いが、その事実と関連させて理由を考えることが苦手である。</p>	<p>資料について、理由を考えさせる場面では、思考ツールを活用し、主体的に思考する活動を多くする。</p>
5年生	<p>興味・関心はとても高く、意欲的に学習に取り組んでいるが、都道府県の名称や位置などの基本的な知識の定着が十分でない児童が多い。</p>	<p>適宜地図帳やICT機器を活用して、学習している都道府県の位置を確認しながら進める。産業の様子を通して、予想したり、思考したりする場面を意図的に設定する。</p>
6年生	<p>歴史の学習について興味関心の高い児童と低い児童に二極化している。また、知識量においての差も大きい。</p>	<p>どの児童も興味関心をもてるように、学習する人物に関するエピソードを交えて紹介したり、映像資料を活用したりする。また、予想を立てるなど思考を促す場面も設定する。</p>